



高松市歴史資料館 年報
平成24年度 No.15

目 次

I 展示

1 常設展.....	02
2 企画展.....	04
3 テーマ展	07
4 ロビー展	07

II 教育普及

1 サンクリスタル学習.....	08
2 学習室展示	09
3 講座	09
4 博物館実習	11
5 広報活動	11

III 資料整備

1 収集	12
2 貸出・特別利用.....	13
3 高松市収蔵品情報システム.....	14
4 ボランティア活動	14

I 展示

1 常設展

常設展示では、基本テーマを「瀬戸内海に育まれた高松の人々と暮らし」とし、高松の原始から現代にいたるまでの歴史と文化の変遷を通観できるようにしている。高松のすばらしさを知り、理解を深めてもらうのが目的である。

展示手法としては、各時代における特徴的な事象をテーマにすえ、実物資料・レプリカ・模型の展示だけでなく、映像資料・グラフィック等も駆使して、観覧者の知的要求に応じられるように特色ある展示構成を図っている。

また、別室のプレイミュージアム（学習室）では、パソコンなどを使って、高松の歴史や文化の情報を楽しみながら学べるよう工夫している。

なお、展示資料は、新収蔵資料による展示替えや資料の保存を考慮して随時入れ替えを行っている。

常設展示室

	テーマ	サブテーマ
プロローグ	海を渡る	
原始・古代	高松平野の成立	・ 高松最初の人類
	稲作の発展と高松	・ 稲作前史 ・ 稲作のムラ
	石清尾山古墳群	・ 古代の国際交流 ・ 高松の古墳文化
	仏教文化と高松	・ 高松平野の奈良時代 ・ 花開く仏教文化
中世	源平合戦と屋島	・ 屋島合戦
	武士の活躍と高松	・ 荘園と農民 ・ 讃岐国守護細川氏 ・ 戦国武将
近世	城下町高松の発展	・ 高松城築城 ・ 香東川と栗林荘 ・ 高松城主松平家 ・ 高松の上水道 ・ 城下の賑わい
	讃岐三白と交通	・ 讃岐三白 ・ 港町高松 ・ 街道と海運
	町人文化と高松	・ 高松の教育 ・ 町人文化と暮らし

テーマ	サブテーマ	
近・現代	近代都市高松の発展	・ 文明開化の時代 ・ 高松市の誕生 ・ 連絡船の時代 ・ 市民の生活
	高松空襲	・ 戦時体制 ・ 高松の戦災
ミニアター	高松訪ね歩記	

映像資料

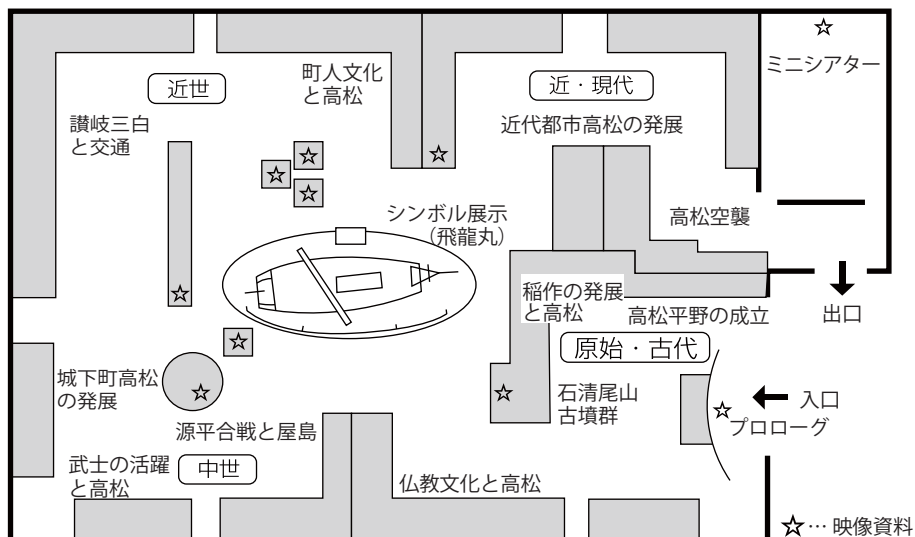
映像種類等	映像資料名
プロローグ	海を渡る
総覧映像	高松歴史ニュース
詳細映像	[原始・古代] 高松平野の姿 旧石器時代の生活 縄文時代の生活 稲作のムラ 石清尾山古墳群 積石塚古墳と盛土古墳 条里のムラを歩く [中世] 兵庫北関入船納帳にみる交易 戦国の世の高松 — 悲劇の城 喜岡城

映像種類等	映像資料名
詳細映像	[近世] 再現された飛龍丸 城下町の賑わい 木村黙老と「聞ままの記」 高松城下町の変遷 - 塩田風景 - 丸亀町筋と常盤橋 - 石清尾八幡神社 - 寺町筋 - 東浜舟入と内町五町 - 城下の井戸 - 高松藩の藩船 - 本丸と天守閣 [近代・現代] 文明開化の先駆者「川崎舎竹郎」 大正デモクラシーと伏石事件 高松砂漠
ミニシアター 「高松訪ね歩記」	- 塩江美術館に行く - 女木島に行く - 庵治石を訪ねて - 中央球場を訪ねて - 盆栽を訪ねて - ガソリンカーを訪ねて - 庵治・純愛の聖地を訪ねて - 石清尾山古墳群を訪ねて - ため池と伝説を訪ねて～三郎池・平池編～ - 柴野栗山を訪ねて - 御蔵焼を訪ねて - 遍路道を訪ねて - 屋島を訪ねて - 香川漆器を訪ねて - 男木島を訪ねて - 町並みを訪ねて～仏生山・香西編～ - 高松港周辺を訪ねて - 香東川を訪ねて - 披雲閣を訪ねて - 菊池寛を訪ねて - 五色台を訪ねて - 西浜を訪ねて - 保多織を訪ねて - 丸亀町を訪ねて
ファンタビュー	源平屋島合戦

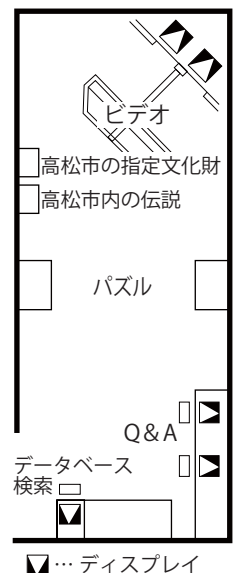
プレイミュージアム(学習室)

コーナー	映像資料名
ビデオ	- 水の武術「水任流泳法」 - 高松市の伝統工芸 ～玉椿象谷と美しき漆芸の世界～ - 高松市の文化財Ⅰ - へんろ道を歩く - 平家伝説を訪ねて ～悲劇の落人たち～ - 忘れかけた手作り遊び ～親子のふれあい～ - 高松の祭礼 - 失われゆくふるさとの手仕事 ～日傘と紙すき～ - 高松市の文化財Ⅱ ～仏像彫刻の世界～ - 古代との対話 ～高松平野の遺跡発掘～ - 失われつつある手仕事「炭焼き」 - 讃岐が誇る文人画家「長町竹石」 - 古代の瓦～瓦が解き明かす歴史～ - 古代の城～屋島に刻まれた歴史～
Q&A	- たかまつのれきしクイズ - おやこでたのしむ香川の民話 - 高松の古い絵葉書コレクション
データベース検索	高松市ウェブミュージアム
高松市の指定文化財 高松市内の伝説	
パズル (高松市の地図)	

常設展示室



プレイミュージアム(学習室)



2 企画展

当館は毎年度、核となる事業として企画展を3回開催している。平成24年度は「高松平野の災害史」、
「久保桑閑とその時代」^{くぼ ぞうかん}、「兵たちの物語」^{つわもの}において讃岐にゆかりが深い人物や出来事をテーマとした内容で
展示紹介した。毎回の開催にあたり、下記から後援をいただいた。

朝日新聞高松総局・RSK山陽放送・RNC西日本放送・NHK高松放送局・OHK岡山放送・KSB瀬戸内海放送・
産経新聞社高松支局・四国新聞社・TSCテレビせとうち・毎日新聞高松支局・読売新聞高松総局

第60回企画展

高松平野の災害史

—地震と水害の歴史に学ぶ防災—

会 期
観覧者数

平成24年4月21日～6月3日(38日間)
1,177人(うち有料観覧者数257人)

平成23年(2011)、日本列島は東日本大震災をはじめ大規模な自然災害に相次いでみまわれた。

このことを受けて、被災地の一刻も早い復興を願いながら、私たちの住む高松市も来たるべき災害に備える必要がある。

本展では、災害を身近な出来事としてイメージできるとともに、将来の災害を予測して対策を講じるための一助となるため、当館の収蔵品等により高松市の地震と水害を中心とした災害資料を展示した。

主な展示資料

- ・友安盛員『讃岐国大日記』 当館蔵
- ・寂本(筆)『四国霊場記 讃州下』 当館蔵
- ・梶原藍水『讃岐国名勝図会 三木郡』 当館蔵
- ・『御用留(新湊町烏屋御用留)』 当館蔵
- ・昭和62年(1987)台風19号被害写真 当館蔵

関連イベント

■講演会

- ・「地震考古学から見た21世紀の巨大地震 ～来るべき南海地震を考える～」
(サンクリスタル高松3階・視聴覚ホール)
4月22日(日)午後1時30分～／講師:寒川旭(地震考古学者)／参加者115人
- ・「高松を襲った地震と台風」(サンクリスタル高松3階・第1集会室)
4月28日(土)午後1時30分～／講師:長谷川修一(香川大学工学部教授)
／参加者90人
- ・「巨大地震災害への備え ～個人で、家庭で、地域でできること～」
(サンクリスタル高松3階・視聴覚ホール)
5月20日(日)午後1時30分～／講師:白木渡(香川大学工学部教授)
／参加者80人

■ミュージアムトーク(企画展示室)

会期中の日曜・祝日午前10時～／展覧会担当者および歴史資料館サポーター
／計11回／参加者延べ60人



▲ポスター

印刷物

- ・ポスター(A2)
- ・チラシ(A4)



▲展示風景



▲「地震考古学から見た21世紀の巨大地震 ～来るべき南海地震を考える～」

第61回企画展
サンクリスタル高松開館 20 周年記念
く ぼ そ う かん
久保桑閑とその時代

会 期
観覧者数

平成24年9月15日～10月28日(38日間)
1,814人(うち有料観覧者数220人)

久保桑閑は、宝永7年(1710)に古高松に生まれた。医術を修め、若き日の平賀源内を伴って、讃岐からは初となる長崎遊学も果たした。

高松松平家の奥医師となった息子、方堅をはじめ一族からは有能な医者が続出するも、自らは仕官を好まず野にあって花鳥風月に親しんだ。後藤芝山、しばのりつざん、きくちぶけん、こうざん、あおばしこう、柴野栗山、菊池武賢(黄山)、青葉士弘ら当代を代表する儒学者たちと交わり、彼らの庇護者となったことでも知られる。

本展では、久保桑閑と彼をとりまく儒学者、蘭学者を取り上げ、18世紀高松藩の学問と医学を概観した。

主な展示資料

- ・菊池五山『三行書』 当館蔵
- ・後藤芝山(編)『新刻改正 論語 後藤点』 当館蔵
- ・江戸時代の医療器具と収納箱 個人蔵
- ・藤澤南岳『城山先生肖像』 香南歴史民俗郷土館蔵
- ・鈴木芙蓉(画)・柴野栗山(賛)『富士山の図』 栗山記念館蔵

関連イベント

■講演会

- ・「わが故郷 わが学問」(サンクリスタル高松3階・視聴覚ホール)
9月15日(土)午前10時30分～／講師：久保正彰(日本学士院長・東京大学名誉教授・古高松久保家十代当主)／参加者80人
- ・「讃岐の医学と蘭学」(サンクリスタル高松3階・視聴覚ホール)
9月16日(日)午後1時30分～／講師：西岡幹夫(香川大学医学部名誉教授)／参加者73人
- ・歴史資料館友の会「讃岐村塾」(柴野栗山とその交友関係)
(サンクリスタル高松3階・第1集会室)
10月27日(土)午後1時30分～／講師：小川太一郎(公益財団法人栗山顕彰会代表理事)／参加者50人
- ・「久保桑閑とその時代—近代日本の原点—」
(サンクリスタル高松3階・視聴覚ホール)
10月28日(日)午後1時30分～／講師：田山泰三(英明高等学校教諭)／参加者70人

■吟詠会(企画展示室)

- ・「吟詠で鑑賞する讃岐人の漢詩」
9月17日(月・祝)午後1時30分～／講師：大森英風(臥風流吟詠会本部総幹、財団少壮吟士)／参加者28人

■ミュージアムトーク(企画展示室)

会期中の日曜午前10時30分～／展覧会担当者および歴史資料館サポーター
／計7回／参加者延べ71人



▲ポスター



▲図録

印刷物

- ・ポスター(B2)
- ・チラシ(A4)
- ・図録(A4縦・48頁)



▲展示風景



▲「わが故郷 わが学問」

第62回企画展

つわもの

兵たちの物語

～絵画に見る源平合戦～

会 期
観覧者数平成24年11月10日～12月24日(39日間)
2,151人(うち有料観覧者数347人)

平安時代末期、天皇や貴族中心の社会の中から、彼らの警護役であった武士が力をつけるようになり、その中で平清盛率いる平家一門が権力を掌握し、最初の武家政権を確立した。これに不満をもった源氏勢力が、平氏に戦いを仕掛けて始まったのが“源平合戦”である。この戦いは、東西さまざまな場所へと舞台を移し、兵たちが壮絶な戦いを繰り広げた。そして平家は滅亡し、時代は貴族社会から武家社会へと移り変わることとなったのである。

この戦いの様子は「平家物語」などの物語になり、絵画、謡曲などの主題として多く用いられた。そして、兵たちが織りなす戦模様、悲哀・忠義のエピソード、またそこから派生した様々な物語は、庶民の間で人気を博し、のちに語り継がれることとなった。

源平合戦にゆかりの深い讃岐の地。特に高松市は、屋島の戦いが行われた古戦場として知られ、佐藤継信の討死、那須与一の扇の的、義経の弓流し等、戦いにちなんだ場所が多く残されている。

このようなことから、当館では開館当初より源平合戦に関する資料の収集に努めてきた。

本展では、源平合戦の世界の魅力をより一層身近に感じてもらう良い機会であり、当館収蔵の絵画や書籍を展示し、それにまつわるエピソードや兵たちの物語を紹介した。

主な展示資料

- ・歌川国芳『讃岐院眷属をして為朝をすくふ図』 当館蔵
- ・狩野休圓『那須与一 扇の的図』 当館蔵
- ・英一蝶『牛若丸図』 当館蔵
- ・橋本周延『屋島の役』 当館蔵
- ・歌川国芳『大物之浦海底之図』 当館蔵
- ・作者不詳『源平合戦図屏風』 当館蔵

関連イベント

■特別企画

- ・NHK大河ドラマ「平清盛」公式ツイッター企画“盛絵”展
(サンクリスタル高松 1階・中央図書館カウンター前／4階・歴史資料館展示室前ロビー)
11月10日(土)～12月24日(月)／観覧者2,525人

■講演会(サンクリスタル高松3階・第1集会室)

- ・「庵治町からみた源平合戦」
11月24日(土)午後1時30分～／講師：木村斉(元高等学校教諭・落語家)／参加者55人

■吟詠会(サンクリスタル高松3階・視聴覚ホール)

- ・「詩吟でよむ源平盛衰記」
12月1日(土)午前11時～／講師：大森英風(臥風流吟詠会本部総範財団少壮吟士)／参加者101人

■ワークショップ(サンクリスタル高松3階・第1集会室)

- ・「飛び出す源平絵本を作ろう!」
12月16日(日)午後1時30分～／講師：四宮龍(立体造形作家)／参加者13人

■ミュージアムトーク(企画展示室)

- 会期中の日曜午前10時30分～／展覧会担当者および歴史資料館サポーター／計7回／参加者延べ104人



▲ポスター



▲図録

印刷物

- ・ポスター(B2)
- ・チラシ(A4)
- ・図録(A4横・32頁)



▲展示風景



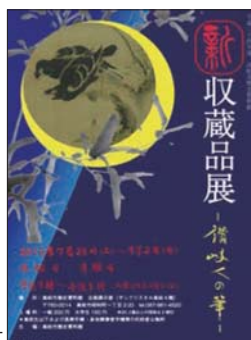
▲「詩吟でよむ源平盛衰記」

3 テーマ展 (収蔵品展など)

収蔵品展 新収蔵品展 ―讃岐人の筆―

■ 会 期
平成24年7月28日～9月2日(32日間)

■ 観覧者数
1,036人(うち有料観覧者数204人)



▶ ポスター

当館では、高松の歴史に関わる資料の収集に努める中で、讃岐出身の人物に関係した書画や文書の収集にも重点をおいている。

江戸時代の高松藩では、藩主松平家によって文化・教養の発展を奨励した政策の下、武士から商人まで身分に関係なく書画を楽しみ、多くの文人画人を輩出した。時代を経て「香川県」と称されるようになってからも、書画は多くの人に親しまれ、作品も残されている。

本展では、当館の新たな収集資料の中から「讃岐人の筆」というテーマで、書画作品を中心に展示・紹介し、讃岐出身の人物による作品の数々を楽しんでいただいた。

関連イベント

■ ワークショップ

・「筆あそび～好きな字をかざる～」(サンクリスタル高松3階・第1集会室)
8月5日(日)午後1時30分～／講師：穴田豊久(高松市歴史資料館館長)
／参加者26人

■ 講演会(サンクリスタル高松3階・第1集会室)

ちくせき りんこく
・「長町竹石と細谷林谷―讃岐が生んだ二人の文人画家―」
8月18日(土)午後1時30分～／講師：堀純子(高松市文化財保護審議会委員)
／参加者25人

■ ミュージアムトーク(企画展示室)

会期中の日曜午前10時～／展覧会担当者および歴史資料館サポーター
／計6回／参加者延べ44人

4 ロビー展

01 レトロなチラシ

4/10～6/8

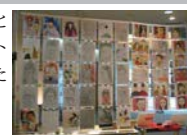
江戸時代に、開店や安売りのお知らせとして配られた引札やチラシを展示・紹介。



05 “盛絵”展

11/10～12/24

NHK大河ドラマ「平清盛」公式ツイッター企画として、全国のファンが描いた登場人物のイラスト(盛絵)と劇中で崇徳上皇・源義経が使用した小道具を展示。



02 東北のこけし

7/24～9/25

東北地方を中心に作られたこけしを展示・紹介。



06 雪・月・花

1/5～2/8

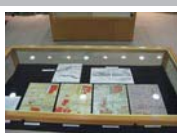
四季の自然美の代表的なものとして「冬の雪」・「秋の月」・「春の花」があり、それらを取り入れている錦絵や玩具を展示・紹介。



03 藩校 講道館

9/25～10/28

江戸時代の高松藩における、学問の場であった講道館について紹介。



07 なつかしの高松 ～昭和の町並み写真展～

1/5～2/8

高松の昭和期の町並みを写した写真パネルを展示・紹介。



04 崇徳院 ―愛と哀しみの生涯―

10/30～12/28

讃岐にゆかりが深く、武士が世を治めるきっかけを作ったともいえる崇徳上皇に関する史跡を、写真や拓本とともに紹介。



08 「野球王国高松」の殿堂 在りし日の高松市中央球場

3/12～4/14

戦後香川の野球の華やかな舞台となった、高松市中央球場の写真パネルや、野球のホームベース等を展示・紹介。



Ⅱ教育普及

「開かれた資料館」をめざし、当館では教育普及に積極的に関わり、資料を通して市民との対話につとめている。そのひとつに、郷土の歴史をより楽しみながらよく知るために、学校教育との連携を図り、市内の小学生を対象に行うサンクリスタル学習を実施している。また、生涯学習の場として、「夏休みこども歴史講座」をはじめ様々な講座などを開催するとともに、博物館実習を行う学生の受け入れをし、学芸員の養成に寄与している。

1 サンクリスタル学習

当館 (4F) は、サンクリスタル高松の名称で呼ばれ、図書館 (1・2F) と菊池寛記念館 (3F) の複合館である。この複合館という利点を生かし、より充実した学習内容と効果をめざすため、市内の小学生を対象とした「サンクリスタル学習」を平成5年度から当館が事務局となり実施している。

展示資料を活用し、分かりやすく歴史を伝え、親しんでもらうために、また、小学生が興味を持って資料に接することができるように、学習の際の補助的な教材として「サンクリスタルノート」を作成している。また、展示解説の際には、校区にある遺跡や古墳などの話を織り交ぜ、興味深く歴史学習ができるように努めている。

サンクリスタル学習を実施するにあたり、各小学校の担当教諭を集めて説明会を開くとともに、それぞれ学習実施前には綿密な事前打合せを行っている。また、必要に応じて各小学校の利便性を考慮し、大型バス等の手配をしている。

サンクリスタル学習参加校

5月	牟礼南小学校	46名
6月	円座小学校	132名
	鬼無小学校	59名
7月	仏生山小学校	75名
	古高松小学校	124名
	川添小学校	95名
	古高松南小学校	107名
9月	牟礼小学校	50名
	川岡小学校	42名
	木太北部小学校	118名
	木太南小学校	131名
10月	屋島東小学校	28名
	中央小学校	153名
	木太小学校	95名
	川島小学校	90名
11月	大野小学校	91名
	前田小学校	52名
	国分寺北部小学校	129名
	香西小学校	106名
	植田小学校	12名
	多肥小学校	156名
	十河小学校	98名
12月	川東小学校	84名
	花園小学校	59名
	高松第一小学校	107名
	檀紙小学校	84名
1月	亀阜小学校	67名
	安原小学校	21名
2月	林小学校	88名
	屋島小学校	100名
	上西小学校	4名
	鶴尾小学校	33名
	高松第一小学校	109名
	香南小学校	78名
合計		34校 2823名



2 学習室展示

■ 主催事業

「民具と昔の暮らし PART2」

かつて実際に使用されていた民具を、見るだけでなく触れてもらえるように展示・紹介し、昔の人々の暮らしや生活の知恵を、子どもたちにも楽しんでもらいたい。

期間：平成24年5月22日～平成25年3月31日



▲ポスター

3 講座

■ 主催事業

夏休みこども歴史講座

郷土高松の歴史をもっと知りたい・学びたいと思う小中学生のために毎年テーマを決め、現地見学を行う講座を開催した。

源平合戦・屋島を訪ねる

教科書には載っていない屋島合戦の色々なエピソードを聞いたり、当時の屋島の状況や歴史を学びながら実際に史跡を巡り、自由研究の一助とした。

7月25日・8月8日・8月22日／講師：十河伯行(源平ボランティアガイド)／参加者：3回延べ68人



▲講座風景

古文書講座

実際の古文書を題材に取り上げ、講師を招いて「古文書に暮らしをさぐる」と題し、古文書に親しむ講座を開催した。

8月16日・9月20日・10月18日・11月15日・1月17日・2月21日・3月21日／講師：三谷敏雄(元高等学校教諭)／参加者：7回延べ365人



▲講座風景

歴史クイズにチャレンジしよう!

春休み・夏休み・冬休みの期間、中学生以下の子どもを対象に、当館展示物にちなんだ歴史クイズで歴史や資料館に親しんでもらいたい。

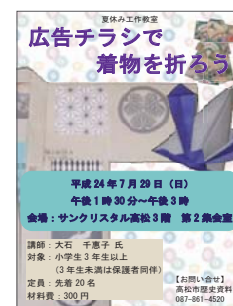
参加者：延べ347人

工作教室

広告チラシで着物を折ろう

広告チラシや包装紙の絵柄を生かして、折紙の着物や半纏を作る教室を開催した。

7月29日(日)午後1時30分～／講師：大石千恵子／参加者：16人



▲チラシ

紙ねんどでつまみ人形をつくろう!

高松の民芸品である「つまみ人形」をまねて、紙ねんどでダルマやうさぎ等を作って好きな色を塗り、自分だけの「つまみ人形」を作成する教室を開催した。

1月20日(日)午前10時～／講師：中山尚子／参加者：20人



▲チラシ

Ⅱ教育普及

■ サポート事業

サポーター養成講座および活動

サポーターによる展示解説のための事前研修を実施し、必要な能力を培った。

講座名	期日
4月例会	4月21日
5月例会	5月6日
6月例会	6月3日
7月例会	7月1日
8月例会	7月28日
9月例会	9月2日
10月例会	10月28日
11月例会	11月10日
12月例会	12月2日
1月例会	1月12日
2月例会	2月3日
3月例会	3月3日

活動名	期日	内容
■ 第60回企画展「高松平野の災害史 —地震と水害の歴史に学ぶ防災—」 ミュージアムトーク	4月 22・29・30日 5月 3・4・5・6・13・20・27日 6月 3日(午前10時～)	展示会場にて展示解説
■ 収蔵品展「新収蔵品展—讃岐人の筆—」 ミュージアムトーク	7月 29日 8月 5・12・19・26日 9月 2日(午前10時～)	展示会場にて展示解説
■ 第61回企画展「久保桑閑とその時代」 ミュージアムトーク	9月 16・23・30日 10月 7・14・21・28日(午前10時30分～)	展示会場にて展示解説
■ 第62回企画展「兵たちの物語 ～絵画に見る源平合戦～」 ミュージアムトーク	11月 11・18・25日 12月 2・9・16・23日(午前10時30分～)	展示会場にて展示解説

■ 共催事業

講座名	期日	講師	参加人数
■ 讃岐村塾			
西嶋八兵衛による東香川治水工事について	5月26日	木下晴一（香川県埋蔵文化財センター主任文化財専門員）	25
もし水原茂・三原脩両監督がドラッガーの『マネジメント』を読んでいたとしたら	6月23日	田山泰三（英明高等学校教諭）	40
清水神社糺洗神事について	7月22日	大嶋和則（高松市教育委員会教育局文化財課主査）	13
古文書に親しむ	8月25日	三谷敏雄（古文書講座講師）	28
もう一つの二十四の瞳	9月22日	立山信浩（香西・下笠居郷土史講座講師）	57
柴野栗山とその交友関係	10月27日	小川太一郎（公益財団栗山顕彰会 代表理事）	50
庵治町からみた源平合戦	11月24日	木村斉（落語家・人権教育課講師）	55
「嘉永四年亥年 殿様御鷹野一件留」を読む	12月24日	山本英之（歴史資料館業務係長）	25
県外研修「高知・室戸ジオパークを巡る旅」	1月26日	—	29
壺井栄と二十四の瞳の真実	2月23日	須波敏子（四国学院大学教授）	40
源氏物語への誘い	3月23日	山下信子（元高等学校教諭）	40

4 博物館実習

博物館学芸員資格取得に必要な博物館実習課程履修のため、各大学から要請のあった学生を受け入れ、博物館実習を行った。

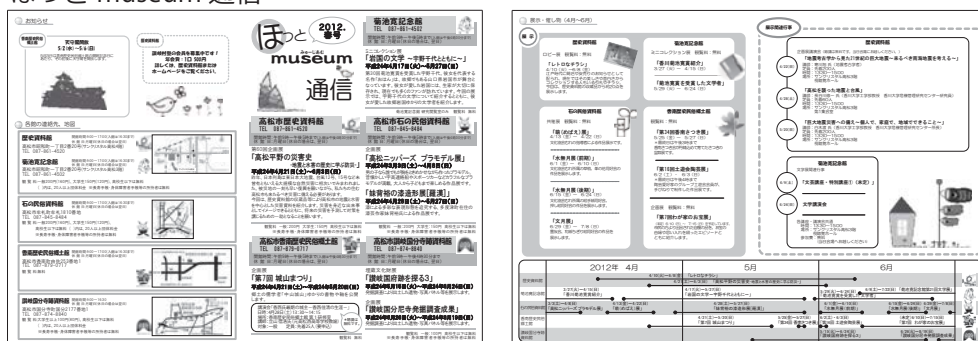
8月3日～8月5日・8月7日～8月9日（6日間） 計3人

5 広報活動

館の情報を広く周知し利用促進を図るため、リーフレット・ポスター・チラシ等を高松市内外の関係施設や観光案内所・ホテル等へ配布したほか、インターネットで各種展示・講座の案内、資料紹介、高松の歴史や文化に関する様々な情報提供を積極的に行った。

また、当館・菊池寛記念館・石の民俗資料館・香南歴史民俗郷土館・讃岐国分寺跡資料館の5館の展示やイベント予定を掲載した『ほっと museum 通信』を年4回、5館の取り組みや市民との活動を伝える『高松市資料館だより maimaiko(まいまいこ)』を年1回発行した。

■ ほっと museum 通信



2012年春号

■ maimaiko (まいまいこ)



第6号（2013年3月発行）

Ⅲ 資料整備

資料整備は、資料館の最も基本的な機能で、かつ重要な役割を占めるものである。

資料の収集・整理・保存を行うことにより、資料館にとって最大の財産である収蔵資料に厚みを増すことができる。これによって常設展示の展示替え、また調査研究を通して企画展示等の方法で市民に還元し、貴重な文化財産を次世代に伝えていく使命を持つ。収集方法としては、購入・寄贈・移管・寄託等がある。

1 収集

■ 購入

22件

資料名	作者・著者名	時代・制作年	員数	全体法量 (cm)		品質
美術工芸 絵画						
蘭石図	細川林谷	江戸時代 (19 世紀)	1 幅	縦 203.0	横 47.9	
山水図	長町竹石 (画) 後藤漆谷 (賛) 梶原藍渠 (賛)	丙寅 (文化 3 年 (1806))	1 幅	縦 187.5	横 59.7	
富士山図	細川林谷	江戸時代 (19 世紀)	1 幅	縦 144.5	横 66.5	
山水図	佐々木雲屋	江戸時代 (18 世紀)	1 幅	縦 205.5	横 66.7	
東京諸名家寄合書画	菊池五山 多湖貫斎 椿椿山 巻菱湖 ほか 4 名	丙申 (天保 7 年 (1836))	1 幅	縦 187.0	横 63.5	和紙絹本
山水図・七絶詩	谷文晁 (画) 菊池五山 (詩)	江戸時代 (19 世紀)	1 幅	縦 195.5	横 75.0	
秋景山水図	長町竹石 (筆) 野呂介石 (書)	丙寅 (文化 3 年 (1806))	1 幅	縦 175.5	横 44.0	
花鳥図	森良敬	江戸時代 (19 世紀)	3 幅	縦 168.5	横 43.0	
美術工芸 書跡						
一行書「天壤無窮」	藤澤黄坡		1 幅	縦 184.0	横 41.0	
双幅	後藤漆谷	江戸時代 (18～19 世紀)	双幅	(右) 縦 207.5 横 38.0 (左) 縦 206.8 横 37.8		
七言律詩	赤松棕園	江戸末期～明治時代	1 幅	縦 122.5	横 47.4	
二行書	藤澤東暎	江戸時代 (19 世紀)	1 幅	縦 195.0	横 48.3	
歴史 絵図・地図						
瀬戸内海図巻			1 巻	全長 543.0	縦 25.3	紙
歴史 刷物類						
絵葉書 披雲閣玄関		大正～昭和時代か	1 枚			洋紙
絵葉書 源平古戦場 屋島檀ノ浦 那須與一祈石			1 枚			洋紙
絵葉書 屋嶋寺 四天王門			1 枚			洋紙
絵葉書 屋嶋寺 東宮殿下 御成門			1 枚			洋紙
絵葉書 讃岐國牟禮栗山堂 及ビ講堂			1 枚			洋紙
絵葉書 高松公会堂		明治～大正時代か	1 枚			洋紙
絵葉書 (讃岐) 檀の浦路			1 枚			洋紙
絵葉書 讃岐五剣山勝景 牟礼塩田より五剣山を望む			1 枚			洋紙
絵葉書 (讃岐屋島名所) 源平古戦場 弁慶長刀の泉			1 枚			洋紙

■ 寄贈・移管 ※掲載の順序は、採納手続き順による

13件

小学初等修身入門 二・三、師範学校編輯萬國史畧 一・二、國民修身書尋常小学校教師用 卷一・三・四・五	4点
戦前高松市内町にあったタマモホテル写真	3点
みとり	1点
新版改正・論語 孟子、新版改正・中庸 大學	10点
第十回内国益品博覧会有功賞メダル	1点
煙草盆	2点
一升枰、一斗枰、蓑 (2点)	4点
写真	58点
石器	22点
写真 (大正八年一月六日釜居谷二於テ撮影)	1点
電気あんか、電熱器、ビール箱、Radio Electrola、足踏みミシン	4点
徳利 7点、徳利受皿 3点、箱 1点	11点
カマ、唐竿、ほか 1点	3点
	計 124点

■ 寄託

1件

田村神社 古神宝	24点
----------	-----

2 貸出・特別利用

■ 貸出

2件

分類番号	資料名	出品展覧会	会場	会期
B.0150	東京オリンピック [ポスター]	昭和モノ語り 一人々のくらしと岡山一	岡山県立博物館	平成 24 年 8 月 3 日～9 月 17 日
B.0226	E X P O' 70 日本万国博 [ポスター]			
T.0053	藤澤東峯筆「二行書」	関西大学大正癸丑蘭亭会 百周年記念行事	関西大学大正癸丑 蘭亭会	平成 25 年 3 月 19 日～5 月 29 日

■ 特別利用

75件

3 高松市収蔵品情報システム

歴史資料館、美術館、市民文化センター、菊池寛記念館の収蔵品および文化財課所管の出土品等のデータを一元管理し、公開可能なものについてインターネットにより広く公開する「高松市収蔵品情報システム」（高松市ウェブミュージアム）を構築するとともに、積極的な運用を図っている。



<http://www.takamatsu-webmuseum.jp/>

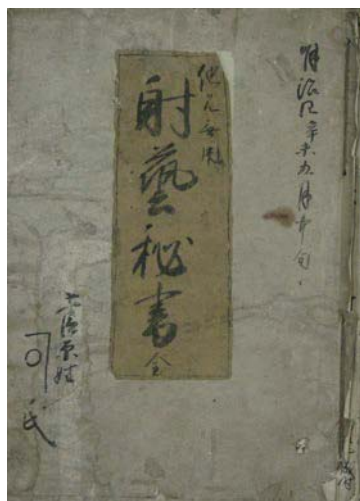
4 ボランティア活動

■古文書解読ボランティア

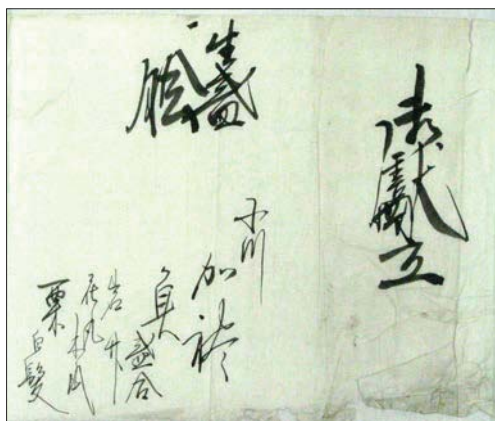
本館で収蔵する古文書等の資料については、平成 10 年度末から本格的に整理分類に着手している。しかし、一連の作業の中核として古文書の解読にあたる職員等の絶対数が不足しており、作業の円滑な進捗が懸念されるため、本館主催の古文書講座の受講生を中心に史料の解読をお手伝いしていただき、一定の成果をあげている。24 年度は書状・冊子などの資料の解読をしていただいた。

参加人数：6 人

解読資料写真（一部）



射芸秘書 全 (W.1651)



御献立 (W.1407)

高松市歴史資料館年報 平成24年度 No.15

編集 (高松市歴史資料館)

デザイン (高松市歴史資料館)

発行 平成25年9月 高松市歴史資料館

〒760-0014 高松市昭和町一丁目2番20号

TEL 087(861)4520・FAX 087(837)9114

URL <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/643.html>

USTAMAHAT
JACIROTZIH
MUZSUM
†roqro l6un6

2012 . Apr



2013 . Mar